



● 新会長ご挨拶

新会長挨拶

手稲郷土史研究会 会長 沖田 紘昭



今年は、私がこの会に入会して足掛け10年となります。郷土史につきましては全くの素人からスタートし、先輩諸氏から陰に陽にご指導いただきながら歩んでまいりました。この度は、昨年来辞退を繰り返してきましたが、改めて永井前会長から会長就任を懇請され、役員の皆様のご推薦と、会長の御窮状を考え合わせ受け入れざるを得ない状況となりました。元より浅学菲才の身であり、決して手稲史のエキスパートでもありません。会員の皆様のお

お支えがなければ、何事も成しえない事は明白であります。どうかご理解いただきご支援賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

さて、当研究会は発足時から「手稲に手稲郷土史館を建設する」ことを目的に掲げて活動してきたことをご承知のことと思います。しかし、諸先輩の方々の努力むなしく、未だ実現の見通しがありません。まずもってこの難題にどう取り組んでいくのかが問われていると考えております。恐らくこの願いが単に我々研究会だけの要望であれば今後も実現は難しいのではないのでしょうか。手稲区民が等しく求める希望の館であるなら話は違ってきます。道は閉ざされているわけではありません。ぜひ会員相互が力を合わせ、研究会に体力をつけてこの扉を押し開いていきましょう。

郷土史という言葉は大変便利な側面を持っています。政治経済の歴史はもとより、住民の衣食住など生活の歴史、近隣の自然史や災害の歴史など多くの物がこの一語に含まれてしまいます。これまでは、私たちの祖先が入植した明治以降の開拓史を研究することが主であったように思います。そこで語られる歴史は、当然ながら生き残った者の歴史が主体であり、生き残ることが出来なかった多くの無名の人々の無念と裏腹にあることを知らねばなりません。さらに近年は、特に縄文時代からつながる続縄文時代、擦文時代、アイヌ史時代の研究が盛んになっており、新しい研究成果が発表されております。当研究会としても手稲で発掘された貴重な遺跡などから、当時の生活を想像してみる研究なども深めていかねばならないと思います。それらの研究から、たとえば先住のアイヌ民族の生活を知り、歴史を知り、友好を深めていく努力も欠かせないものと思います。

かつて高度経済成長期には「明治は遠くなりけり」と言われたものですが、現在では「昭和は遠くなりけり」と変えてもいいほど、昭和を知らぬ新しい若い人々が増えてきております。私たちの会にも多くの若者が加入し、このような新しい課題にも取り組んで頂きたいものと期待しております。最後になりますが、会員皆様のたいなる好奇心とご健勝を祈念しご挨拶といたします。



手稲郷土史研究会への連絡先変更のお知らせ

5月1日より、手稲郷土史研究会への連絡先が変更になりました。郵送・FAXは林事務局長、メールアドレスは岡和田広報部長の担当となります。手稲郷土史研究会へのお問い合わせ、手稲区の歴史に関する情報提供、手稲郷土史研究会入会希望のご連絡もお待ちしております。

郵送先→ 〒006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5 FAX→ 011-682-9874

メールアドレス→ teinekyoudoshi@gmail.com

令和5年度 定例会 研究発表予定表

開催日時	内容(仮題)	発表者	
5月10日(水)18:15	ふれてみよう アイヌ民族の歴史と文化	石井ポンペ氏	札幌アイヌ文化交流センター勤務
6月14日(水)18:15	星置神社のあゆみ	加藤 剛氏	星置神社宮司
7月12日(水)18:15	明治牧場について	菊池忠義	手稲郷土史研究会 会員
8月9日(水)18:15	留萌沖三船殉難事件を忘れない	鈴木清士	手稲郷土史研究会 会員
9月13日(水)18:15	手稲のアイヌ史研究(その1)	沖田紘昭	手稲郷土史研究会 会員
10月11日(水)18:15	手稲にとって手稲山とは何か	道尾淳子氏	北海道科学大学准教授 理学博士
11月8日(水)18:15	乗り越えた天寿「北日本除雪機の再建」	平木重雄	手稲郷土史研究会 会員
12月13日(水)18:15	「北日本飛行学校物語」出版記念講演	茂内義雄氏	郷土史家(元手稲郷土史研究会会長)
1月10日(水)18:15	「私の夫はだれ…」55年前の署名記事から	一ノ宮博昭	手稲郷土史研究会 会員
2月14日(水)18:15	手稲本町商店街の歴史について	松井隆文	手稲郷土史研究会 会員
3月13日(水)18:15	手稲の自然と子供時代	武市尚子	手稲郷土史研究会 会員

*会場は いずれも手稲区民センターの予定ですが、変更の場合もあります。定例会または会報でご確認ください。

手稲郷土史研究会の令和5年度「定期総会」を開催

4月12日、手稲区民センター2階第1・2会議室において、手稲郷土史研究会の令和5年度『定期総会』が開催されました。第1号議案「令和4年度事業報告」、第2号議案「令和4年度決算報告」、第3号議案「令和4年度会計監査報告」、第4号議案「令和5年度事業計画(案)」、第5号議案「令和5年度予算(案)」、第6号議案「役員選任」のそれぞれについて審議の結果、すべて承認されましたので、ご報告いたします。

令和5年度の役員と分掌は つぎのとおりです(敬称略)。
 会長＝沖田紘昭、副会長＝立花邦雄(兼 渉外担当)・乙黒通子(兼 広報担当)、事務局長＝林 俊一、理事＝中島千恵子(会計部長)・川上義昭(総務副部長)・立花邦雄(研究部長)・濱埜静子(研究副部長)・神川君江(研究副部長)・岡和田夢子(広報部長 兼 資料部長)・菊池博行(研究部委員)・諸橋弘子(研究部委員)・宗本和弘(研究部委員)。相談役には鈴木清士・一ノ宮博昭・永井道允、監事には佐々木光男・都築俊文の各氏が就きました。



ていぬの部屋

新年度は役職変更とともに、昨年入会された会員が役員に就任し、新体制となった手稲郷土史研究会。新年度もご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

9月は「視察研修旅行」が予定されているほか、昨年、手稲区役所1階に新設されました「ていぬの部屋」に併設の「手稲歴史資料展示コーナー」の展示に手稲区役所地域振興課担当の方々のご協力のもと取り組んでまいります。なお、コロナに鑑み、計画は変更される場合もありますことを予めご承知ください。



富丘・中の川にて撮影

令和5（2023）年は全国的に桜の開花が早い年となりました。年々の日本の平均気温上昇の影響から例年に比べ記録的な暖かさとなったこの3月は開花が一気に進み、手稲区でも2週間ほど早く桜（ソメイヨシノ）が見られました。

手稲区内にある桜の花見スポットをネットで調べてみたところ、中の川緑地（前田2条4丁目）、旧軽川緑地（前田5条～8条）、三晃ぼうけん公園（前田8条10丁目）、軽川緑地（前田1条10丁目～8条8丁目）、星置公園（星置2条1丁目）、星観緑地（手稲星置317）、前田森林公園（手稲前田591）、稲積公園（前田1条5丁目）の8か所が多く挙げられていました。皆様も一度は訪れたことのある場所があるかもしれません。

4月25日、春の陽気を感じる暖かな日に軽川緑地を通り過ぎた際には花見を楽しみに多くの人々が訪れていました。コロナが少し落ち着き、人々が外出を楽しめるようになってきたことを感じた光景でした。5月2日に改めて訪れると桜の見頃は過ぎていましたが、毎年恒例の鯉幟を見ることが出来ました。

私も今年、桜と手稲山が見られるお気に入りの場所でお花見を楽しみました。桜を見たあと近寄って桜の香りを楽しむのが私のお花見の楽しみのひとつです。甘く爽やかなその香りから頭に浮かんだのは…桜餅！花見をしていて桜餅が食べたくなりました。花より団子な私です。帰宅後、家にあった北菓楼の春限定商品「桜ひとひら」を食べました。桜の葉が練り込まれた餅菓子に、しばし心とお腹を満たしました。（岡和田）



前田・軽川にて撮影

*参考文献：広報さっぽろ 2023年4月号手稲区版「手稲の桜を見に行こう！」



近頃、全国で卵の品薄状態「卵ロス」が続き、手稲区内のスーパーでも卵が手に入らず「おひとり様1パックまで」と購入制限する状況がありました。そんな出来事もいつか郷土史の片隅に残るのではと思い、「卵ロス」を題材にマンガにしてみました。

今後、会員の皆様から手稲で起きた大小さまざまな出来事をマンガでご紹介できればと思います。題材ご提供いただける方は広報部・岡和田までご連絡をお願い致します。

▶「金の山」の繁栄とともに築かれたまち…

金山地区は、『手稲鉱山』の繁栄とともに成立したまちです。昭和 17 (1942) 年の字名改正以前は、大字下手稲村字下手稲星置 および 手稲鉱山に属し、分離当初は 金山＝キンザン が正式名称 ※北海道庁拓殖部「手稲村字名改稱地番整理二関スル件」(昭和十七年) でした。

『手稲鉱山』は 明治中期、星置川の上流で 金鉱床が発見されて 採掘が始まったと伝わります。幾人かの鉱業主を経て、昭和 10 (1935) 年から 経営を委ねられた 三菱鉱業株式会社により、日本有数の金属鉱山へと発展。最盛期の周辺人口は 7,000 超といわれ、まさに 一大“鉱山街”でした。昭和 46 (1971) 年 閉山。跡地では、鉱害防止のための業務が現在も続いています。なお、昭和 11 (1936) 年に「軽川尋常小学校 手稲鉱山特別教授場」として開校した 現在の手稲西小学校には「鉱山の部屋」※見学は要予約 が設けられ、採掘現場を再現した展示をはじめ 当時の道具や鉱石なども公開しています。



手稲西小学校所蔵の鉱山関連資料
(手稲区ホームページより)

▶水源地 星置川…

手稲で最初の上水道は 昭和 14 (1939) 年、三菱鉱業株式会社が『手稲鉱山』の社宅用に計画し、星置川から取水・敷設したものでした。

昭和 20 年代に入り手稲町も上水道の整備に動き出しますが、星置川の水利権はすでに三菱鉱業にあり、水源確保は至難でした。昭和 28 (1953) 年、三菱鉱業が水利権と設備の一切を手稲町へ寄付したことで、翌 29 (1954) 年、「手稲水道」が事業認可。30 (1955) 年には配水管や沈殿池などの工事に着手し、33 (1958) 年 1 月、一部給水開始。さらに工事の推進を図り、昭和 34 (1959) 年 12 月、宮町浄水場からの通水が完成します。昭和 50 年代には 浄水場も新しく建て替えられ、“星置川のおいしい水道水” が広範囲に供給されています。



星置川上流の「星置の滝」
(手稲区ホームページより)



昭和 47 年 2 月撮影
札幌オリンピック 手稲山会場
(札幌市公文書館 所蔵)

▶冬季五輪の競技会場…

「手稲山」にも住所があり、北西部は 手稲金山^{ていねかなやま}です。昭和 47 (1972) 年 2 月に開催された『冬季オリンピック札幌大会』では、アルペンスキーマの回転・大回転競技、ボブスレーおよびリュージュ競技がここを会場に行われ、TEINE の名を世界へ発信しました。

その後も、多彩なコースが備えられたスキー場は“札幌市街から石狩湾まで一望できるスポーツリゾート”として知られ、スキーやスノーボードを楽しむ人びとでにぎわっています。 [編責：広報部]

*『手稲鉱山』の詳細については、歴史パネル「手稲最大の産業遺産 金が採れたヤマ『手稲鉱山』」(手稲区ホームページ「手稲区の紹介→歴史」に掲載)をご覧ください。

*参考文献：札幌市『手稲町誌』(上)(下)、札幌市『新札幌市史』第 5 巻、札幌市教育委員会『さっぽろ文庫 16～冬のスポーツ』、同『さっぽろ文庫 24～札幌と水』、手稲連合町内会連絡協議会・手稲鉄北連合町内会連絡協議会『手稲開基 110 年誌 手稲の今昔』、札幌市手稲区『手稲区ガイド』、手稲郷土史研究会『手稲鉱山の思いを語る』、ほか。

次回定例会 ⇒ 発表内容「星置神社の歩み」加藤剛氏 (星置神社宮司)

6 月 14 日 (水) 18:15 ~ / 手稲区民センター 3 階 視聴覚室 ※会員でない方のご参加は事前の申し込みが必要です。